



☆☆☆2014富士宮地区労福協☆☆☆

役員視察研修の報告について



■視察研修の目的

今回は昨年新たにスタートした社会貢献活動の森づくり活動の広がりや地域共生を目指して、既に「木育」をテーマに先進的に活動しているNPO法人を訪ねて、行政との連携、地域の学校や企業等、多くの繋がりの中で地域の森林や林業問題についての取り組みを教示いただき、労福協が現在行っている活動の幅を広げていきたい。

■視察日程と参加者

- ◇2014年9月20日（土）
～21日（日）の2日間
- ◇富士宮地区労福協役員12名
とホールアースより1名同行



■視察行程

- ◇9/20（土）NPOグリーンウッドワーク協会と意見交換会（岐阜県美濃市）
グリーンウッドワーク体験学習（古城山環境保全モデル林）
- ◇9/21（日）県立森林文化アカデミー見学
新田の森視察（山の駅ふくべ）
グリーンウッドワーク体験学習（古城山環境保全モデル林）

■参加役員から視察にあたりひと言

| 富士宮地区労福協役職 | 所属団体・役職 | 氏名 |
|------------|----------------|-------|
| 会長 | テルモ労組・中央執行副委員長 | 小林 純一 |

富士宮地区労福協のシンボリックな活動である「森づくり」の参考にできるような視察としたい。森づくりで間伐した木材の再利用、もしくはその活用に関するヒントに繋がるものがあれば良いと期待している。また、それ以外にも各種あるNPOの1つとして、運営のノウハウや金銭的なことなど富士宮地域で自分たちでもNPOなどが創造できるものなのかなど話も聞ければと思っている。

| | | |
|--|---------------|-------|
| 副会長 | 富士フィルム労組・支部長 | 天野 貞洋 |
| 「生木」から「使えるモノ」へのグリーンウッドワークが大変楽しみです。最近では、つい電動工具を使おうとしてしまうので、手工具での工作に興味があります。家族分（4本）のスプーンを怪我しないように作って帰りたいと思います。 | | |
| 副会長 | 富士宮市職組・執行委員長 | 藤田 英希 |
| この研修において森づくりの未来と木の活用を学んできたいと思います。 | | |
| 副会長 | 静教組富士支部・支部長 | 吉川 浩 |
| 世界に一つしかない最高のスプーンを作って家族に自慢します。 | | |
| 幹事 | ニッピ労組・執行委員長 | 飯室 憲一 |
| 数回の間伐作業により基礎は身についたので、今後富士宮で森を育てる必要性を広げる活動や間伐材の利用法を学びたい。 | | |
| 幹事 | 富士フィルム労組・書記長 | 吉田 一隆 |
| 労福協の「森づくり」活動を通して、国土の7割を占める日本の森林が荒廃しつつあることを知らなかったことに危機感を覚えた。環境保護にどのように関われるのかを学び、自然との触れ合いや木材の活用（木工）を通して地域・家族の絆を深める活動に繋げていきたい。 | | |
| 幹事 | 大宮精機労組・労福協担当 | 伊東 誠 |
| いろいろな意見を聞いて有意義に過ごしたい。 | | |
| 幹事 | ダスキン富士宮・総務部長 | 佐藤 英子 |
| 人と森との共生を考える時、すでに実践している環境保全をも考えた森林を見てみたい。 | | |
| 幹事（若者の会会長） | 富士フィルム労組・会計監査 | 渡邊 恭史 |
| 初めての視察研修となります。多くのことを吸収し、富士宮での活動に役立てることができるよう頑張ります。 | | |
| 幹事代理 | 富士フィルム共済会・会長 | 嵩井 輝和 |
| 初参加です。二日間楽しみながら、皆さんと交流させていただければと思いますので、宜しくお願い致します。 | | |
| 特別幹事 | 田貫湖の木こり | 森の管理人 |
| 富士宮労福協の「森づくり」も定着しつつある。今後の課題として、①更に参加者の拡大を図る②活動充実③他地域との交流促進④参加者の満足向上→また参加したいと思える等々を充実させたく、訪問先の活動の現地現物で体験したい。 個人的にはもう一度富士宮労福協の森づくり活動の目的・狙いを今回参加者に感じて頂きたい。 | | |

| | | |
|--|-------------|-------|
| 事務局次長 | ろうきん富士宮・支店長 | 富田 忍 |
| 現在、富士宮地区労福協で行っている「森づくり活動」を前進させる為のきっかけとしたい。「木育」の体験学習を通じて、自然のすばらしさを肌で感じたいです。 | | |
| 案内役 | ホールアース・理事 | 大武 圭介 |
| 労福協の皆さんとの交流を深め、これからの活動のヒントを得たいです。 | | |

視察レポート① NPOグリーンウッドワーク協会とは？

2014年9月20日から21日の2日間、2年に1度の恒例行事になります労福協役員視察研修を実施しました。今回は新たな社会貢献活動として、昨年からスタートした「森づくり活動」のヒントを得る為に、岐阜県美濃市で活動しているNPO法人グリーンウッドワーク協会を視察しました。

参加者は小林会長以下、総勢12名に今回のグリーンウッドワーク協会を紹介いただいたホールアース研究所の大武さんも同行し、13名を乗せたバスで一路岐阜県美濃市へ向かいました。

富士宮から約3時間30分かけて、美濃市役所から車で5分の山間にある古城山環境保全モデル林の施設に到着しました。午前中はグリーンウッドワーク協会の小野さんより、同協会の活動について説明がされました。2008年にNPOとしての認可を受け、専属職員として小野さんが活動の企画、運営を行い、イベントや行事に合わせて、60名の会員が随時協力していく体制になっています。この視察にも、大村さんが2日間、西川さんが1日、体験学習や森の散策に協力いただきました。

ここが会場です！



GW小野さんの説明



熱心に聞き入る視察メンバー



さて、グリーンウッドとは？「乾燥させない生の木」のことで、これを材料として人力の道具を用いて、様々なモノづくりをすることを「グリーンウッドワーク」と呼んでいます。

古くは1989年にイギリスのマイクアボット氏が本を執筆、人力の木工の良さが再評価され、環境にやさしく、体に良い趣味の木工として世界に広がってきたようです。

グリーンウッドワークの良いところは

- ①どんな木でも材料になる
- ②場所を選ばず、どこでもできる（電気がいらぬい）
- ③地球にも人にもやさしい
- ④子供も大人も安全に楽しめる
- ⑤森と人が繋がる

作品の数々！
これが手作り？



具体的にどんな作品ができるのか？

木の指輪、木の花、木のスプーン、木のクリスマスツリー、木の器、木の椅子、木のボウリング等々
主にはものづくり講座で、4講座（指輪、スプーン、うつわ、椅子）をメニューとして行っています。

このものづくり講座を通じて、広く一般市民に木や森を通して豊かな心を育む「木育」の普及に取り組んでいる団体であることが小野さんの説明でわかりました。

富士宮地区労福協からも富田事務局次長から労福協の説明、社会貢献活動の取り組み報告を行い、小林会長のわかりやすい解説もあり、グリーンウッドワーク協会の皆さんに今回の視察も目的や労福協について、短時間で理解いただきました。

午前中は昼食休憩も忘れて、互いの団体の説明や充実して意見交換ができました。

視察レポート② グリーンウッドワーク体験 1日目

午後からはグリーンウッドワークのものづくり講座を体験する為、「スプーンづくり」に全員で挑戦しました。まずは、材料である栗の木でカットされた生木が用意されました。

2人1組で順番にまき割りのように、材料をカットし、削り馬で木を固定して、「せん」という刃物できを削り、木を丸く成形しました。

さあ、体験学習スタート！

おっと、マキ割です

丁寧に皮を削りましょう



続いて、丸く成形した木を「足踏みろくろ」にセットして、木を回転させながら、「のみ」で削り、スプーン先端の丸みをつけます。

削り馬で形を整えるぞ！



足踏むろくろで回転



できたかな？たかし君



それが終わると「万力」という刃物を使い、半分にカット！こけし人形のような素材となりました。材料にスプーンの型紙で枠取りを行い、ここからは、あらゆる刃物を駆使して削りながら、形を整えていきます。

これがスプーンの原型です！



ここが難しいですよ！



労福協役員全員、幼少期のころが芽生え、夢中に木を削っていました。初日は、一定の形ができたところで夕暮れとなりました。

これが管理棟



楽しいなあ

視察レポート③ 森林文化アカデミー見学

視察2日目、岐阜県立森林文化アカデミーを見学しました。アカデミーは前身の林業短期大学を2001年に「森や木に関わる生き方をめざす人の為の専門学校」として、開学しました。1学年40名（クリエイター科、エンジニア科）の計80名が定員で、林業再生、木造建築、ものづくり、山村づくり、環境教育等の各専門授業を行っています。生徒80名に対して、18名の教員がおり、手厚い教育がされています。

今回同行いただいたホールアースの大武さんはアカデミーの第1期卒業生で、グリーンウッドワーク協会の小野さんも卒業生、大村さんは現役の在校生でした。

自然豊かな山間に素晴らしい校舎や作業場等、森と木に関わる専門学校にふさわしい施設といっても過言ではありません。こういう環境で学習するからこそ創造力が培われると確信しました。校内の至るところに生徒達の建築モデルが立ち並んでいます。幼少の頃、読んだ「トムソーヤの冒険」を思い出しました。

卒業生達の大半は自ら起業するもの、関連したNPO団体に所属するもの、県の職員として林業の分野で働くもの等、ここで学んだ知識を使って、全国各地で活躍しています。

アカデミーの入り口



木材の乾燥室を見学



生徒による木製ジャングルジム



生徒の設計施工によるモデル



木質の梁が素晴らしい作業場



校舎も木質の格子状でおしゃれ



視察レポート④ 山の駅ふくべの活動について

アカデミーの見学後、バスに乗り、美濃市片知にある「新田の森」を探索に行きました。ここでは山の駅ふくべの藤井さんに先導いただきました。全国90%のシェア持つ岐阜県の和傘。その和傘の骨組みに活用しているエゴノキがこの森に群落として育っています。近年、エゴノキは鹿による食害が多く、アカデミーの柳沢先生が和傘職人や生徒達と共に、調査活動をしているところでした。

藤井さんによる説明



これが新田の森の入り口



柳沢先生よりプロジェクト説明



また、そもそものエゴノキ伐採をする地元市民や和傘の職人も数える程の人しか残っておらず、岐阜県の伝統工芸を守っていく為の多くの悩みを聞くことができました。

山の駅ふくべは、地域の森林が過去の分収契約によって、国から片知地域に返還されたことを契機に、森林と地域を繋げる活動を行っている団体です。具体的には間伐してマキや炭の販売、キノコ菌打ち等、様々なイベントで地元の活性化に努めています。山の駅ふくべの藤井さんもなんとアカデミーの卒業生でした。

和傘のろくろ職人！長屋さん
貴重な伝統工芸を守る職人さんです！



山の駅ふくべが作った間伐材のマキ



見よ、このきのこの原木！



視察レポート⑤ グリーンウッドワーク体験 2日目

さて、2日目の午後からはスプーンづくりの最終作業を行いました。
ノミを使ってのスプーンの溝を作るところや角度をつける削りが非常に難しく、約2名のスプーンは折れてしまい、小野さんのボンドによる緊急オペで事なきを得ました。

削り作業、2日目スタートです



力が入り過ぎ、約2名スプーンが折れました！



紙ヤスリで磨き、何とか全員グリーンウッドのスプーンが完成しました。

最終工程、慎重に！



小野さんの見本、さすが！



ようやく、終了しました



感動です！世界にひとつしかないスプーンです。

モノづくりの達成感に全員ご満悦でした。グリーンウッドワーク協会の小野さん、大村さん、西川さん、2日間ありがとうございました。

必見です！全員のスプーンの完成作品



グリーンウッドワーク小野さん、大村さん



この視察研修では大きく2つ学ぶべきことがあったと思います。

一つはグリーンウッドワークです。生の木を使って、様々は作品を手掛けることができる素晴らしさは体験した人に感動を与えることができます。足踏みろくろや削り馬等、工具を用意しなくてはならない点がありますが、全国ではまだまだ活動が広がっていません。私達、労福協も現在行っている森づくり活動で出る間伐材をグリーンウッドで活用できないか、検討していきたいと思います。併せて、グリーンウッドワークを広める活動を微力ながら、支援していきたいと考えます。

2つ目は森林文化アカデミーの存在です。県立学校であり、行政のバックアップを基に、2001年のリニューアル以降、卒業生や在校生で構成された強固なネットワーク、そして岐阜県という森林資源を活用すべく「ものづくり」や「森林と人との共生」を目指して活動していく中心には、常にアカデミーの魂があります。

この研修でお世話になった皆さんも全てアカデミーの卒業生であり、このネットワークを富士宮地区労福協に置き換えて、「途切れない新たな繋がり」を構築していきたいと考えます。労福協活動に関わった役員や会員が「勤労者の幸せ」を願って、役員交代があってもアカデミーのように永続的に関わりあっていける仕組みを考えていきたいです。

そのきっかけが「森づくり活動」になるように、この研修で得たことを現役員で総括し、これからの労福協活動に繋げていきたいと思います。

最後に今回グリーンウッドワーク協会を紹介いただき、また研修の案内人として、同行いただいたホールアースの大武さん、ありがとうございました。

地元富士宮で「森づくり活動」を通じて「勤労者とその家族の幸せ」探しのお手伝いをこれからも宜しくお願いします。

(研修報告担当 事務局次長 富田)

■視察を終えての感想

小林会長



今回2日間に渡り、岐阜県美濃にありますNPO法人グリーンウッドワーク協会に視察に行きました。そこは人力の道具で生木を削って木工製品を造る講座を行っている所で2日間掛けて木工スプーン造りを体験しました。体験を通して、そうそう簡単にできる物はなく、スプーンを造る為には、それなりの道具も必要であり、富士宮労福協で間伐して出た材の再生について直ぐに実行に移せるというものではありませんでした。しかし、今回「グリーンウッドワーク」を支援している「岐阜県立森林文化アカデミー」とそのアカデミーを卒業した人達が活動している「山の駅ふくべ」の3組織の関係性については参考になりました。アカデミーが行政をふくべが地域とまた地域産業である「和傘」業者を巻き込んだ活動をしていました。それは地域の中で「山」「木」「地域産業」などを何とか活性化させ地域おこしをしたい部分に共通する目的があり、それぞれの立場で連携して活動していたことが勉強となりました。富士宮労福協も単独では、なかなか活動は前に進まない事も多いです。この視察を参考に行政やNPOや地域を巻き込んだ活動を展開できるようにしていきたいと感じました。

| | |
|---|---|
| <p>吉川副会長</p>  | <p>丸太がスプーンになるにつれて、捨てられてもおかしくないような木に命が吹き込まれ、愛着がわくものに変身していきました。今でもスプーンを見ると、作った時の苦労や、参加者と協力した事を思い出します。この体験を通して、森がとても大切に思えるようになったし、その資源を無駄にはいけないと強く感じるようになりました。このような体験をできるだけ多くの人にも経験してもらい、たくさんの人に森の事について考えてほしいと思います。</p> |
| <p>天野副会長</p>  | <p>2日間のスプーン作り体験を通じ、「生木」の加工のしやすさには大変驚きました。また、廃材として捨てられるものを「使えるモノ」への活動の大切さを身を持って感じました。今後も富士宮労福協の「森作り活動」にも積極的に参加していきたいと思います。追伸：グリーンウッドワーク協会の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。</p> |
| <p>藤田副会長</p>  | <p>今回の研修に参加し、生木を通しての環境教育や地域への貢献ができることを学び、そして、森に対して親近感を感じる事が出来ました。学んだことが今後の活動にいかせればと思いました。</p> |
| <p>飯室幹事</p>  | <p>今回2度目の参加で美濃市でグリーンウッドワークという生木を活用した工作を中心に研修させていただきましたが、生活に密接したものではなく、趣味的な要素が強く地元でも活動が限られていて、とてもいいものだが市民への拡大推進が今後の課題と感じられた。富士宮でも森作りへの理解と、間伐材の有効活用に皆さんが参加していただける活動へ今後活かしていきたい。</p> |
| <p>吉田幹事</p>  | <p>100円で何でも揃う時代、6時間かけて作ったスプーンは愛着が沸いた。それぞれの拘りも面白い。時間はかかったが、電気を一切使わず製作したところに充実感を感じた。実地研修では、森林を守ることが、「水源を守る」ことに繋がることを改めて教えて頂いた。(木が多いと土壌が荒廃すると共に、木が水を吸い上げ蒸発させるため湧き水が減る) アカデミーの建屋は特徴的で、各世代が作った記念建造物が面白い。しかし、学生が少人数なためか、荒廃が進んでおり、維持管理の難しさを感じた。地域の子供が集まって遊ぶこともあり、恵まれた設備と環境があると感じた。会員は40名とのことで、素晴らしい活動だが意義が未だ広がっていないと感じた。NPO活動が自己満足ではなく、ニーズに応じて運営を成り立たせるべきだ、とのコメントが印象的。自然体験と環境保護が同時に出来るWin×Winの地域活動にこれからも関わってきたい。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>伊東幹事</p>  | <p>岐阜県美濃市でグリーンウッドワーク協会の間伐材を使ったスプーン作り、山の駅ふくべで間伐の現状を聞いた。どちらもボランティアと会費などをベースに活動がされていて、これを問題点としてあげられていた。富士宮で活動をやっていくなら林業者と連携して継続的な仕組み作りが必要です、スプーン作りはかなり面白かったです。</p> |
| <p>佐藤幹事</p>  | <p>今回の視察先の活動を支えているのが、多くのボランティアの人々である事。勿論、森や木が大好き人間。森女（もによ）・・・の存在にも驚き！人生初、生木から人力でのスプーン作りを体験、楽しさは格別。とても癒された。</p> |
| <p>嵩井幹事代理</p>  | <p>視察研修に初めて参加させていただき、貴重な体験をさせていただきました。森林も定期的に伐採しないと水源が枯渇してしまうこと、単に自然を守るということではなく、手をかけないといけないことを教えて頂きました。生木から作り上げるスプーン作りでは、電動工具を一切使わず、すべて手動の工具で完成させてこと、これが物づくりの原点なんだなあと感じました。11月には労福協の森、森づくり活動も控えております。地域密着型の活動として定着させ、「山の駅ふくべ」に負けない活動をしていければと思います。微力ではありますが、富士フィルム静岡社員会として、諸活動にも協力させていただきますので今後ともよろしくお願い致します。</p> |
| <p>森の管理人</p>  | <p>研修中はスプーン作りが私たちの標榜しているところにマッチングするのは？と自問していた。終わって冷静に振り返ると、目立つことでなく、社会貢献の御旗を出している訳ではない。でも、自分たちのできることを愚直に真正面に行う人との出会い、NPOだからの想いの勘違いを現地の人・自然に触れることで感じられたことは、今後の社会貢献活動に活かせると思える素晴らしい研修だった。</p> |
| <p>渡邊幹事</p>  | <p>富士宮地区労福協として「森づくり」に携っていく中で、これまでと角度の異なる視線で見ることができ、視野拡大につながる視察研修となった。スプーン作り体験は楽しく出来たが、それを「楽しい」だけで終わらせない、また、非営利として活動を継続していく為には等、課題は多いと感じた。</p> |
| <p>大武案内役</p>  | <p>初めて視察研修に同行させていただき、役員の皆様の森づくりや地域に対する熱い思いを肌で感じました。これを機に労福協の皆様と共に、富士山麓の森と地域をより元気にする活動を広げて行きたいと思います。</p> |